



茨木市CSW 活動報告書

2023

令和5年度 茨木市コミュニティソーシャルワーク協議会

<表紙について>

昨年に引き続き、とくゆみさんに表紙のデザインをお願いしました。

CSW が地域の皆さんと作る「輪」と「和」をイメージした素敵な表紙ができました。



紡ぎ筆セラピー とくゆみ

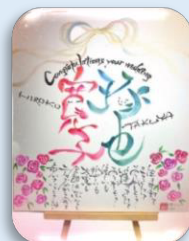
市内在住のアーティスト。

お名前アート、お名前キーホルダー、メッセージカード等々、作品多数。

☆是非こちらの QR コードから⇒



お客様と言葉を紡ぎながら、いろいろな形をお作りします



＜ご挨拶＞

日頃より、地域福祉活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび、CSWの活動報告書を取りまとめるにあたり、皆さまに活動内容と成果をお伝えできることを大変嬉しく思います。

CSWは、地域の高齢者や子育て世代をはじめとする多様な住民の皆様が安心して生活できるよう、様々な支援活動を行ってまいりました。

特に、地域でのつながりが希薄になるなど、孤独・孤立化が社会課題となる中、地域のつながりを意識した活動を図りました。

これからも地域の声に耳を傾けながら、誰もが暮らしやすい地域社会の実現に向けて邁進してまいりますので、皆様のご支援とご協力を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本報告書が地域の皆様の一助となることを願いつつ、今後ともCSWへのご理解とご支援をお願い申し上げます。

福祉部 福祉総合相談課長 澤田 信一

近年、世界情勢や気候の不安定さなどの影響で、全国各地での未曾有の自然災害や物価高による日常生活への圧迫など、心配事が数えきれないほどです。

また同時に地域での住民同士の関係の希薄化や孤立・孤独化も社会問題となっています。

こうした状況のもとで、当会は「お互いに支え合えるつながりを育む」のテーマのもと、様々な課題を抱えている方に寄り添い自立に向けた支援や、支え合いの仕組み作りを地域の方々や関係機関とともに取り組んでまいりました。

今回の報告書は、個別ケースから組織化した活動、小中学校との日ごろの連携等を紹介しております。市内で活発な活動を行っておられる方々や団体、行政機関の皆様にお手に取ってご覧いただき、今後の活動の糧としていただけることを切に願う次第です。

今後ともCSWの活動に皆様の温かいご支援とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

茨木市コミュニティソーシャルワーク協議会
会 長 神野 享士



コミュニティソーシャルワーカー配置促進事業とは

平成 15 年 3 月大阪府は、社会福祉法に基づく都道府県地域福祉支援計画として「大阪府地域福祉支援計画」を策定し、その中で、地域における見守り・発見、つなぎを行う「地域保健福祉セーフティネット構想」を示しました。その後、府の健康福祉分野の単独施策を整理し、再構築を図るため、平成 16 年 2 月に「大阪府健康福祉アクションプログラム」を策定し、改めて「地域の健康福祉セーフティネット」を重点施策として位置づけ、平成 16 年 7 月に「コミュニティソーシャルワーカー配置促進事業実施要綱」を制定しました。この事業は、平成 20 年度で廃止となりましたが、茨木市では引き続き高齢者、障害者、ひとり親家庭など援護を必要とするあらゆる方々（要援護者）やその家族への支援を通じて、福祉の向上のための基盤づくりを行い、健康福祉セーフティネット（いきいきネット）の構築を図ることを目的として事業を継続しています。

本市では「茨木市コミュニティソーシャルワーカー配置事業実施要綱」に基づき、社会福祉法人や N P O 法人などに事業を委託して、平成 18 年 4 月から 2～3 小学校区ごとに計 14 か所に「いきいきネット相談支援センター」を設置し、それぞれに 1 名のコミュニティソーシャルワーカー（C S W）を配置しています。

C S W は、福祉に関する幅広い知識を持ち、見守りや相談から適切なサービスへのつなぎ、各種サービス利用申請の同行など要援護者への支援を行います。さらに、困難な支援ニーズや複数の機関等との連携が必要な事例に関して、見守りやサービスなどの調整を図るため、課題に応じた関係機関で構成するケース検討会（健康福祉セーフティネット会議）を開催することにより、地区福祉委員や民生委員・児童委員など地域で見守り活動をする方が課題を 1 人で抱え込まないようにするとともに、地域で支えるセーフティネットの体制づくりを行っています。



こんにちは！ 私たちは 茨木市のCSWです

『CSW』って何??

Community (コミュニティ) は 「地域」、
Social Worker (ソーシャルワーカー) は
「生活する中で困りごとを、一緒に考えサポ
ートをする人」という意味です。



茨木市内には 14 人のCSWがおります

★生活の中の困り事、お悩み、気になる事…
あらゆるご相談について一緒に考えていきます。

★住み慣れた地域で誰もが安心して
暮らし続けられるよう、会議の中で地域の方々
と意見やアイデアを出し合います。
(茨木市健康福祉セーフティネット会議など)



★サービスがないのなら…
仲間と一緒につくります！



スーパ
ー
ご近所さん！

とも呼ばれています😊

地域が笑顔つづく
温かい信頼関係づくりを目指します





茨木市健康福祉セーフティネット

●茨木市健康福祉セーフティネット=いきいきネットとは

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、高齢・障害・ひとり親家庭・困窮などで社会的援護が必要になっても孤立することなく、支え合う地域社会を目指す体制が、茨木市健康福祉セーフティネット=いきいきネットです。

●セーフティネットの機能

- ①身近な相談窓口にて、発見・予見のできる体制を作ります。
- ②地域での総合的な相談支援の仕組みをつくります。
- ③要援護者の声を受け止め継続的な支援を行います。

●健康福祉セーフティネット会議について

健康福祉セーフティネット会議は現在、茨木市内32の全小学校区にて、CSWが事務局となり定期的に開催しています。対象を限定しないで危機介入から日常生活支援まで幅広いケースに対応したり、地域課題について検討したり、専門家を招いて勉強会を開いたり、地域性に応じた内容で進めています。

誰もが安心して暮らせるよう、住民主体で解決すべき問題・共通課題に取り組む過程で、地域力を高めていくことを目的に行っています。

《茨木市健康福祉セーフティネット会議のイメージ図》





地域内でオリジナル組織化

誰もが望む生活に少しでも近づけるように
地域の中でオリジナルな組織化をお手伝いします



その1、15分「ごみ拾い隊！！」

きっかけを教えてください！



身体障がいのある方から「何か僕にもできるボランティアはないか？」と相談があり、ボランティアセンターと一緒にいき相談しましたが、本人の希望にマッチしませんでした。ボランティア情報を待ちましたが得られずに日にちは経過しました。当初から「僕になんてごみ拾いしかできない」との発言がきっかけで、町内の「ごみ拾い隊」を組織化することになりました。



協力者となってくれた方はどなたですか？またどのような形で協力者を得ましたか？



CSWが以前より付き合いのある住民の方や、セーフティネットで地域の方へ声掛けを行うと、3人の方が協力を申し出てくれました。障害の相談支援事業所、地域包括支援センターの職員なども参加してくれています。また、就労はできないけれども、掃除が得意な人、友達が欲しい人などにも声をかけると、4人の方が参加協力してくれています。現在7.8人が参加されています。



どのような工夫をされていますか？



月に1回「15分だけ」と気負わないようにしています。集合場所は近所の公園にし、気軽に集まれるように工夫しました。活動のお礼に、フードバンクからいただいた飲み物などお土産もあり、みなさん活動を楽しみにされています。



何か効果はありましたか？また、何か印象的なエピソードはありますか？



ひとり暮らし男性の方が多く参加されています。回数を重ねると会話も多くなり、他の地域行事へ参加される方もおられます。春には、貸農園の方より採れたての完熟のイチゴをその場で頂きました。何とも言えない美味しさでした！



その2、「ヤングケアラー世帯への支援」

きっかけを教えてください！



難病の方への支援なのですが、明らかにサービスが足りずヤングケアラー状態の世帯で、活用できる社会資源がなく、ボランティアセンターにも相談しましたが時間がたってもマッチングできない状況が続いていたことから手段を模索していました。地域の民生委員には随時経過を共有しつつ、セーフティネットで話題に取り上げた際に、「私たちがチームを作るしかないかなあ」という声がきっかけです。



協力者となってくれた方はどなたですか？またどのような形で協力者を得ましたか？



相談支援機関で話し合い、転居されるまでの期間限定で支援チームを作りました。役割分担し、直接サポートする機関として民生委員、相談支援事業所、CSWが担い、間接的にサポートする機関として担当ケアマネ、社会福祉協議会ボランティアセンターや地区担当が協力してくれました。



どのような工夫をされていますか？



支援に入る前に何度も専門機関で話し合い、チームで対応するルールを作りました。民生委員には対応内容を明確にお伝えし、負担をかけすぎないように配慮しました。身体状態の変化とともにニーズも変わるため、本人へのアセスメントを適宜行い、家族の意向も踏まえて対応しました。具体的には病状が進行し、訪問中に本人が移動や排泄面の困り、子どもたちが本人に適した介護方法が分からないなど丁寧に聞き取り、訪問看護による介護指導や福祉用具の再調整など担当ケアマネとは密に連絡を取り対応しました。



何か効果はありましたか？



希望する全てを叶えることは難しいと、本人を含め誰もが分かっていましたが、精神面では孤立感の解消、しんどい時も寄り添い、見捨てない人がいてくれるという安心感が言葉の端々や表情から読み取れました。また、活動から同居家族以外のサポートも増え、子どもは手が空いた時間を使い、貢献したいとボランティア活動するようになったと聞いています。





個々のニーズを丁寧に拾い、制度やサービスへつなぐのが役割ですが、サービス
がなければ作る! 作る時にCSWも孤立することなく、誰と何を何のために作るのか…
をセーフティネットの場では検討されることもあります。意外な副産物を得ることもあ
り、小さな循環は時には大きな渦になることもあったりします。人と人のご縁がみん
なの生きる活力になると確信しています。





令和5年度 相談からつながった機関と団体

CSWはご相談内容に合った機関とつながり、協力しながら支援の輪を広げていきます。



市役所
地区保健福祉センター



高齢者関係事業所



医療機関



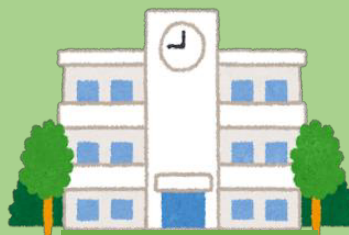
幼稚園・保育園



民生委員児童委員
主任児童委員



障害者相談支援事業所



小学校・中学校

他にも・・・

- ・地区福祉委員会
- ・社会福祉協議会
- ・フードバンク
- ・警察・消防・ユースプラザ等

令和5年度は学校を中心とした連携の機会がたくさんありました。

特集ページで事例の一部をご紹介します！



子ども達を見守る 温かい支援の輪

子ども達の生活場面には大人の見守りや手助けが必要です。子育て世帯が孤立しないよう、地域でどのようにサポートができるでしょうか？
CSWは学校・地域と連携し「温かい支援の輪」を作るお手伝いをします。



① 「朝起きられず、登校できない」(母・小2の子・小1の子)

CSWへのご相談

生活リズムが整わず、子ども達の学校生活にも支障が出ている世帯。
ひとり親であるお母さんの負担は大きいと思うのですが、誰にも相談していないようです。子ども達が毎日登校できるよう、学校としてはできるだけサポートしますが、学校にいる時間以外の様子も心配…子ども達もお母さんも、元気に安心して生活してもらいたいのです。



小学校の先生



CSW

お母さんの負担を少しでも減らせるよう、ゆっくりお話をうかがいます。先生方と一緒に必要な手続きをお手伝いしたり、地域の居場所(子ども食堂等)につないで、親子が長く安心して暮らせるようなサポートをします。



子ども食堂
地域住民

子ども食堂では、愛情たっぷりのおいしいごはん
と温かい声かけが名物！地域には安心できる場所があり、
頼れる顔見知りがいる。地域 みんなで子ども達の
成長を見守ります。



学校の先生方が積極的に働きかけて下さったことをきっかけに、学校・CSW・地域住民がしっかり連携しながらご世帯をサポートすることができました。今では子ども達は元気に登校できるようになり、たくさんの顔見知りの人から「行ってらっしゃい」「おかえり」と声をかけてもらっています。その声に応える子ども達の笑顔は、私たち支援者を笑顔にしてくれます！

これからも学校、地域、支援機関が仲良く協力し合える地域でありたいですね。



② 「軽度知的障害でコミュニケーションが苦手な中学生、書類の理解や手続きが苦手な親」(母・中3の子)

CSWへのご相談

あと数か月で中学3年。高校進学において話し合いや書類作成の機会が増えています。現在私達教員は、本人や親御さんのペースに合わせてやりとりしていますが、中学校を卒業したらお手伝いできなくなります。彼女自身、卒業後の生活に不安を感じていても人見知りでコミュニケーションが苦手。お母さんにもその不安について上手く伝えられずにいます。卒業・進学・さらにその後も続いていく生活を見据えたサポートを、一緒に考えていただきたいのです。

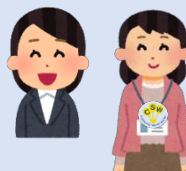
中学校の先生



CSW

本格的に受験準備に入る前に先生が橋渡しをして下さったので、ゆっくり信頼関係を築いていくことができました。口数が少なく初めは緊張気味でしたが、少しずつ相談をしてくれるようになり、親子と先生とCSWで話し合いながら受験の準備を進めていくことができました。

現在通っている高校の先生方にも中学校の先生が橋渡しをして下さったので、必要なサポートがスムーズに行えています。コミュニケーションや手続きが「苦手」であることは変わらないのですが、「不安」は「相談すれば何とかなる」と変わっていったようです。中学校の先生方が渡して下さった橋を、これから少しずつ本人が進みたい方向に伸ばしていけるよう、丁度良い距離感を保ちながら一緒に歩いていきたいと思います。



学校の先生方からCSWへ、そして地域へとつながった事例を紹介しました。

気軽なご近所付き合いが難しい昨今でも「子ども達に笑顔でいてほしい」と願う気持ちはみんな一緒。学校・地域が手をつないでつくる「温かい支援の輪」は、いつも子ども達を見守り、子育て世帯を応援しています。





小学校、中学校校長先生より コメント抜粋

家庭環境が複雑で、様々な問題を抱えている生徒の情報交換がしやすく、安心して協力してもらえています。今後も、課題を抱える生徒の家庭に、学校以外の方がつながっていただけ、学校と地域が連携して子どもたちをしっかりと支援していきたいと思います。

CSWは安心して連携でき、一緒に地域の子どもたちを見守っていける、非常にありがたい存在です。

生活困窮家庭や要支援家庭などへ、学校教育とは違った観点からの福祉的アプローチをしていただいていることが特に良いと感じています。

家庭の生活基盤の部分には、なかなか学校では踏み込みにくい場面があり、地域からのアプローチとして家庭とつながることができる強みがCSWさんにはあり、頼もしいと感じる存在です。



子どもの環境や家庭への支援など積極的に関わって頂いて助かっている。今後も積極的に支援してほしい。CSWも大事なので、小学校1校に1人は配置してほしい。

CSWは、外部機関との連携など相談窓口のひとつ。家庭への関わりを担ってくれる存在。

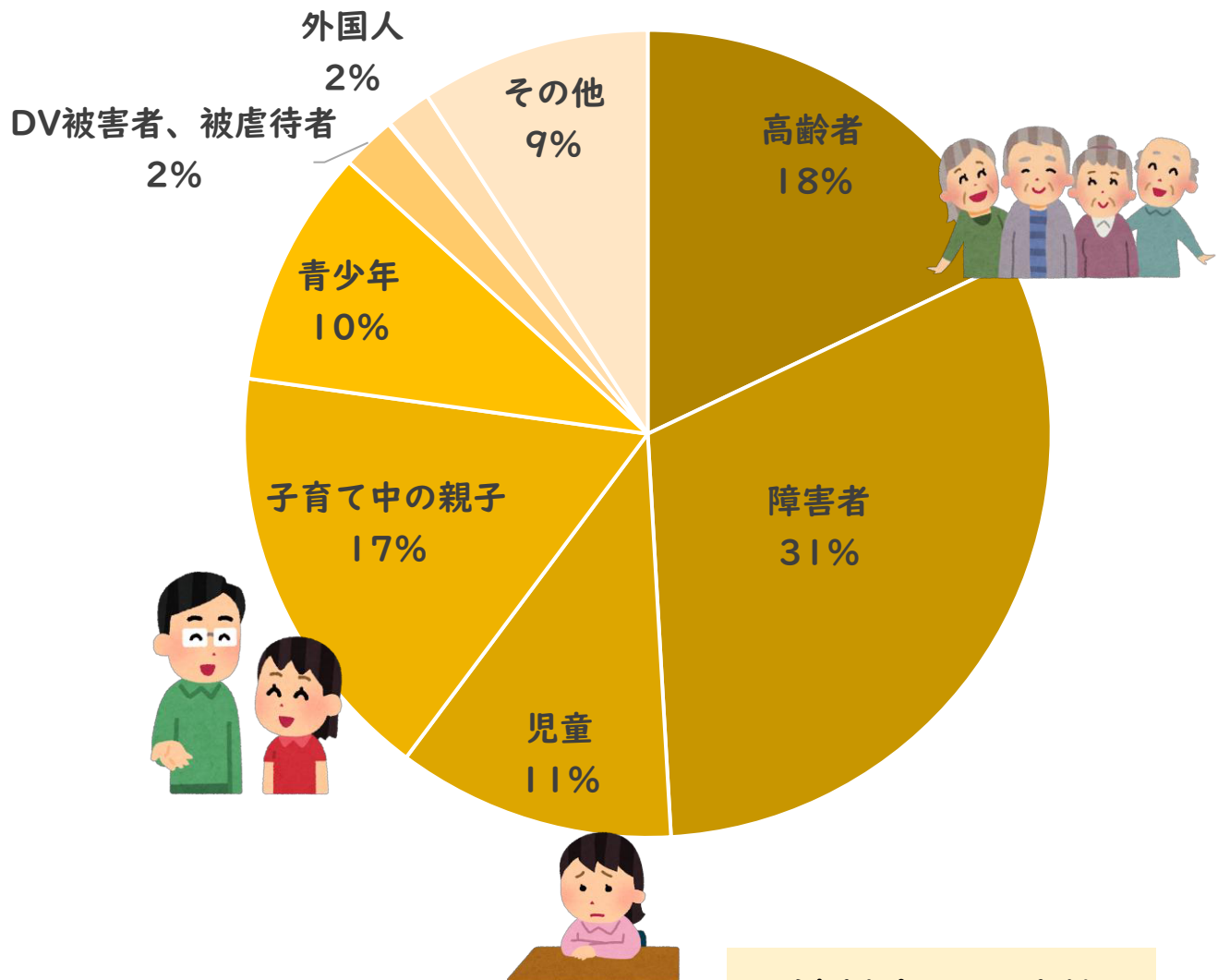
おかげさまで、子どもが笑顔で登校できたり、Helpを出すことができるようになったりしています。

学校にとって、CSWは、なくてはならない存在です。家庭支援が必要不可欠な生徒が一定数、存在しています。教育現場では、生徒の支援に注力していくことはできますが、十分な家庭支援とまでは、及ばずで、CSWさんが家庭のサポートをしてくださって、子どもが安心して、大人に頼っていいと思えることや先の見通しがたつこと、将来が不安にならずにすむことなど、子どもたちにつながる支えが多いです。いつも親身になって、連携してくださり、感謝でいっぱいです。



要援護者に対する個別相談支援業務実績

令和 5 年度の相談者数は 2,632 人

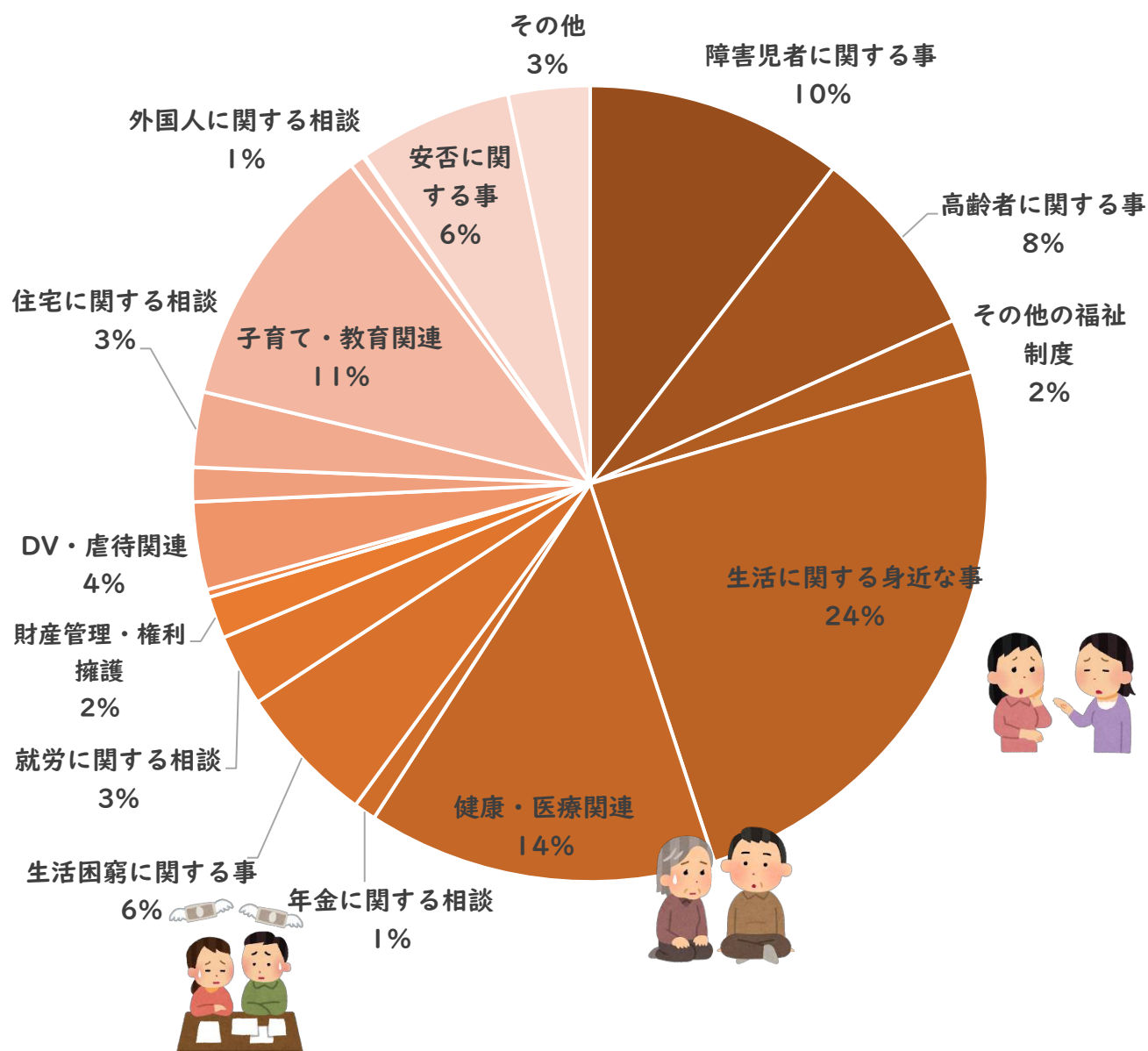


相談対応延べ件数

23,237 件

児童に関する相談・子育てに関する相談が前年度と比べ約 10% 増えました。CSW は子育て世帯が孤立しないようお困り事を一緒に考え、学校や地域の方々とサポートします。

相談内容



ご相談の多くは「生活に関する身近な事」

- ・「中学生の子どもが不登校。社会とつながりを持ってほしい」
- ・「80歳の私が倒れてしまったら、50歳の息子の生活はどうなるのか心配」
- ・・・等々、年齢・内容問わず幅広くご相談をうかがいます。



CSW協議会 部会活動

【福祉活動交流会部会】

日 時：令和5年12月1日（金）14時から16時

場 所：中央圏域 障害福祉センター ハートフル4階 第1・第2会議室

北圏域 男女共生センター ローズワム 404・405号室

東圏域 西河原多世代交流センター 大広間

西圏域 男女共生センター ローズワム 501・502号室

南圏域 南保健福祉センター フリールーム



参加者：315名

民生委員・児童委員、主任児童委員、福祉委員、自治会、公民館、コミュニティーセンター、まちづくり協議会、こども食堂、シルバー人材センター、小学校、中学校、高校、大学、実習生、地区保健福祉センター、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、いのち・愛・ゆめセンター、ユースプラザ、社会福祉協議会、市役所関係課（教育推進課、子育て支援課、こども政策課、福祉総合相談課）

テーマ：思いやりでつながる茨木 ～未来へバトンタッチ～

目 的：少子高齢化の中、地域活動の担い手は大きな課題となっている。これまで育んできた温かな地域のつながりを継承しつつ、その時代に合った誰もが支え合い、認め合う持続可能な地域について考えることを目的とする。

内 容：①講義「思いやりで地域はつながる」

講師：古川隆司氏（追手門学院大学 社会学部 社会学科 教授）

②実践報告

報告者：池澤郁子氏（西河原地区 民生委員・児童委員）

下田平敬子氏（耳原地区 主任児童委員）

③大学生の発表

④各会場にてグループワーク

⑤全会場及び講師をオンラインでつなぎ、発表⇄コメント



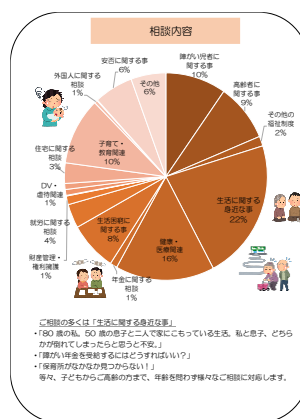
新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度からオンラインと対面を織り交ぜた「ハイブリッド式」での開催も4回目となりました。圏域ごとに小さな会場で実施することで、顔なじみの温かな雰囲気で行えた一方で、オンラインならではの音声の聞き取りにくさなどの課題もありました。

講義や実践報告、大学生の発表の後グループワークを行い「福祉活動の担い手を育てるために行っている取り組みについて」「福祉活動の担い手づくりのために行っていきたいこと」等、いろんな意見を聞きあう中で新たな発見や気づきが生まれました。たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。

【周知部会】

【報告書の紙面構成について】

報告書は市のホームページにアップされ、広く市民におく報告する目的であると考え、CSWについて知らない人が見ても伝わるように工夫をし、CSWの役割について説明するページも設けることを心がけました。



また、年度当初から新しい部会員で報告書を作る方法に切り替えたのも今年度でした。負担が減り、様々な方に配るという目標をもって作成に取り組みました。

表紙の題字と、CSWチラシは市民の方に描いていただきました。



【茨木市保護司会との交流会】

・令和5年10月6日 CSW協議会にて茨木保護司会 会長 田畑様をお招きし、「更生保護とは?」「現在の保護司の活動」等基本的なことから、地域での実際の活動等お話をお聞きしました。事前アンケートによると、CSWとして連携したケースとしては

- ・就労支援
- ・住居確保の支援
- ・環境調整先の家族への支援
- ・少年院退院後の地域での支援

との結果でしたが、数としてはあまり多くはありませんでした。

普段の活動で保護司の方と連携をとる機会が少ないCSWでしたが今後お互いに情報共有し、連携に繋がっていければと感じる交流会でした。

【スキルアップ部会】

制度の狭間にある方や複合課題があるケースの個別支援、それぞれの地域性に応じた地域支援、関係機関との連携など、幅広い相談支援業務を担っているCSWは、日々悩みながら経験を重ね自己研鑽を積んでいます。協議会としてスーパービジョン（以下SVと表記）が受けられることとなり、発足2年目のスキルアップ部会では前年度からの流れを受け、実践に必要かつ専門性が問われる分野の先生方にスーパーバイザーを依頼し、その特性に応じたSVを下記の通り企画・実施しました。多忙な業務時間を調整し皆で学んだハイレベルの知識や技術は、各CSWの資質及びモチベーションの向上、課題の解決につながっています。

<主な活動>

- 4月 CSW協議会のテーマ「お互いに支え合えるつながりを育む」を受け、そのために必要なスキルを身に付けられるよう、年間活動計画を立てる
- 5月 スーパーバイザー依頼及び打合せ・SV開始（～2月まで計12回）
- 9月 自己点検表（前期）の実施及び集計
- 2月 自己点検表（後期）の実施及び集計
- 3月 振り返り・次年度に向けての打合せ



～自己点検表とは～

幅広い知識や技術が問われる一方、数値化の難しいCSW業務について、意識的に取り組むべき内容を言語化し、定期的に振り返りができるよう、茨木市CSW協議会が独自に開発したもの。期待される機能別(※)に全93項目からなり、CSW全体のレベルアップを目的としている。

※対象者への基本的関わり姿勢／個別支援機能／ソーシャルサポート機能／組織化・ネットワーク機能／仕組みづくり機能／自己研鑽

<スーパーバイザー及びSVの概要>

1. 精神科医 川島 文雄 氏(フィードバック含め計8回)

精神疾患や発達障害、パーソナリティ障害のある方、またその疑いのある対象者に関わる際の対応や、精神医療に関する情報について、定期SV相談会にて、実際の事例を通して助言をいただく。

2. 追手門学院大学社会学部社会学科 教授 古川 隆司 氏(計2回)

地域課題の抽出・分析・解決に向けた取り組みについて、前年度に引き続き課題解決型ワークショップを実施。エリアごとの個別の助言やフィールドワークへの参画もしていただく。

3. 茨木市子ども・若者自立支援センターくろす 管理者 上村 喜代栄 氏(計1回)

相談支援における話術の構造について、具体的にポイントを絞った講義をしていただく。

4. 東京都立大学人文社会学部 准教授 室田 信一 氏(オンラインにて計1回)。

地域共生社会の創造において必要な知識や技術について、将来を見据えた「茨木市オリジナルのCSWの在り方」を考えながら学ぶ研修会を実施していただく。





こんなこと、ありませんか？

詐欺にあわないか心配…



生活するお金に
困っている…



外に出るのが怖い…



不安で眠れない…



もしかして依存症…？



あなたや
あなたの近くの方が
抱えている困りごと
まずは“はなすこと”から
始めてみませんか？

物忘れがひどくなった…



ストレスで暴言・暴力を
ふるってしまいそう…



手続きが難しい…



などなど…住民の皆さまの不安や困りごとをうかがい、解決に向けて一緒に考え、必要な相談支援・つながりをさせていただきます。

＜相談無料・守秘義務あり＞

CSW は茨木市内の 14 か所にいる福祉の専門職です。

各小学校区担当 CSW は、裏面でご確認ください。

※CSW 配置事業は茨木市からの委託事業です。

いきいきネット
相談支援センター





♪いきいきネット相談支援センター 一覧♪

担当小学校区	いきいきネット 相談支援センター	CSW	連絡先	
清溪・忍頂寺・ 山手台	やまゆり苑	清水 まお	大字泉原37-6	090-5122-6613
安威・福井・ 耳原	天兆園	福嶋 友美	安威二丁目10-11	072-640-3970
豊川・郡山・ 彩都西	常清の里	田村 綾	清水一丁目28-22	072-646-5601
太田・西河原	天兆園	高橋 恵子	安威二丁目10-11	090-7365-9229
三島・庄栄	M-CAN（ミカン）	熊木 愛奈	総持寺駅前15-21	080-2430-5342
東・白川	エルダー	神野 享士	庄二丁目7-38	080-8946-3999
春日・郡・ 畑田	ビーベル	久保 麻美	上穂積一丁目2-27	072-622-0166
沢池・西	春日丘荘	新田 恭子	南春日丘五丁目1-8 西保健福祉センター内	080-3215-6096
春日丘・穂積	静華苑	鍵谷 由樹	見付山一丁目11-1	072-665-6678
茨木・中条	茨木市社会福祉協議会	新見 裕子	東中条町2-1 3 茨木市合同庁舎5階	080-4294-2331
大池・中津	茨木市社会福祉協議会	大嶋 香織	東中条町2-1 3 茨木市合同庁舎5階	080-4294-2296
玉櫛・水尾	あしはら	釘嶋 智子	沢良宜東町14-31 シャトーかわもと1階	072-636-6088
玉島・葦原	茨木市南保健福祉センター	福田 正幸	新和町21-27 南保健福祉センター内	072-630-2550
天王・東奈良	南茨木	坪井 照子	東奈良三丁目16-14	080-4169-5540

令和6年10月現在

CSW：Community Social Worker
（コミュニティソーシャルワーカー）





発 行：茨木市コミュニティソーシャルワーク協議会

編 集：令和 6 年度 周知部会

高橋 恵子 （いきいきネット相談支援センター天兆園）

久保 麻美 （いきいきネット相談支援センタービーベル）

坪井 照子 （いきいきネット相談支援センター南茨木）

新見 裕子 （いきいきネット相談支援センター茨木市社会福祉協議会）